

市道弥富相生山線に関する「住民意向調査」についての提案

ラブリーアース J a p a n 事務局/古川善嗣

別紙「提案募集」に寄せられた意見をもとにした、第1次（5月6日現在）の提案です。
【サポーター意見】も記載します。ご検討ください。

1. 調査対象

1) 地域・・・「相生山緑地周辺の4学区」にとどまらず、できるだけ広い範囲の名古屋市民

【サポーター意見】・道路の利害は近隣住民の問題かもしれないけれど、森が破壊されることの利害関係者は近隣の住民だけではない。
・自然は、近隣住民だけのものではないのです。

→ 道路の利害を個々人に問えば住民亀裂の要因にもなりかねないが、より高度な問題意識を喚起することによって止揚できます。E S Dの理念が名古屋市民に問われています。「意向調査」の中で問われるべきことです。

【サポーター意見】・意思表示には、地元の人だけではなく他の区民も参加できるよう配慮願うことを切望いたします。

〈同意見がほとんど〉→ 対象地域外になった名古屋市民にも、意思（意向）表示できるような手段を実現させてください。

2) 年齢・・・大人だけでなく、子どもたちにも

【サポーター意見】・結果に、より大きな影響を受けるのは、これからの世代の子どもたちです。

→ 18歳以上、高校生以上、中学生以上 それぞれの意見あり。

2. 調査方法

1) 投票所にて賛否を投票

【サポーター意見】・集約の仕方によって結果が左右されるやり方はさげたい。
・だれもが納得できる結果が出せることが望ましい。
・個人の意見が明らかになることで後から不都合が起きることのないように。

→ 通常の選挙投票方式が、より公正で個人の意思が反映でき、結果が簡単に集約でき、分かりやすい。

2) 調査実施の周知徹底 ← 認識していない対象者も多数存在すると推察。

3. 調査対象者への情報提供

【サポーター意見】・賛成、反対の根拠を良く知らない人にも明らかにして、判断してもらいたい。
・本当のことを知らずに判断して、後から取り返しのつかないことにならないよう、分かっている事は知らせて欲しい。分かっていることは分かっているということも大切だと思います。
・私は反対することが正しいと思っていますが、みんながフェアな情報の下で判断されたならそれに従わざるを得ません。情報操作はあってはなりません。
・道路のメリット、デメリットをあらゆる対象者にわかりやすく説明すべし。

・賛成派、反対派両方の意見をきちんと生で聞かせてください。なぜなら、両者の意見を直接聞かないと、意見がゆがめられて伝わってしまうかもしれないからです。

- ①なぜ道路を作らなければならないのか？・・・道路建設の理由
- ②なぜ工事を中止したのか？・・・・・・・・・・残されていた問題点を明らかにする
- ③なぜ道路を作ってはいけないのか？・・・・・・・・建設反対の理由
- ④反対が多かった場合どうなるのか？・・・・・・・・計画撤回は可能なのか

→ 上記のような内容の情報を説明会や文書配布などの手段で、対象者に繰り返し提供していくことが「意向調査」成功のカギであると考えます。

分かっていることと、まだ分かっていないことを客観的に整頓し、誠実に公表すること。あらかじめの結論（賛否とも）に誘導するものになっていないか、の自己点検も重要です。

4. 意向調査の進め方

【サポーター意見】・相生山に深く関わってきた方がた（道路建設に賛成、反対を問わず）に、調査の内容について意見を聞きながら進めるべきだと思う。これまでもつれてきたのは、問題にきちんと対処するよりも計画の推進に重きを置いたからではないか。同じ失敗を繰り返さないために、後顧の憂いを無くす為に、ていねいに（時間的制約はありますが）段階を踏むべきと考えます。

→ 「意向調査」検討会は、9月実施に向けたスケジュール、プロセスをすみやかに公表すること。

→ これまで「請願書」・「要望書」・「意見書」・「質問状」を提出してきた団体・個人に対して、その意見を聞き、参考にしながら進めること。

→ 検討会は内容の策定、対象者への情報提供などにあたって、上記団体・個人との合同の「意見交換会」を2ヶ月に1回程度は持ち、（行政主導であっても）市民と協同して意向調査を実施していく姿勢を堅持すること。

以上